

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070201142		
法人名	医療法人 正周会		
事業所名	グループホーム 玄海の森 (西館)		
所在地	〒808-0123 福岡県北九州市若松区大字有毛2933-6	093-742-5567	
自己評価作成日	平成27年05月12日	評価結果確定日	平成27年07月03日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年06月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

森と海に囲まれた豊かな自然の中にあり、時には小鳥のさえずりを聴きながらゆったりとした静かな環境で過ごしていただくことのできるグループホームです職員はご入居者お一人おひとり向き合い、ホームの理念である「自分らしくのんびりと共に過ごす豊かな日々」を念頭に、家庭的な雰囲気を大切に認知症の進行を穏やかにし、のんびりと楽しく生活していただけるようサポートしています。また、協力医療機関との連携で、安心な介護サービスをご提供いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしくのんびりと 共に過ごす豊かな日々」という理念を掲げ玄関に掲示している。職員は常に理念を意識しながら、理念に基づいたケアの実践に努めている		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回、音楽療法を実施、その他ハーモニカ演奏等のボランティア訪問がある。また、戸外の散歩時に近隣の方と挨拶を交わしたり、地域の祇園祭に参加したりと、地域との繋がりをもつようになっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生や地域のボランティアの受け入れを通し、グループホームのあり方をお伝えしている。また、運営推進会議等で認知症について理解を深めて頂きながら様々な情報提供を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ご利用者の家族、区長、包括職員等にご参加いただいている。会議では、サービスの実際や評価への取り組み状況等をご報告し、いただいた意見は議事録に明記、サービスの向上に活かしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して事業所の考え方や実情をお伝えし、協力関係を築けるようにしている。また、問題・課題などが生じた場合は、指導・助言を仰ぐようにしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルがあり、随時見直しを行っている。身体拘束をしないケアに関する内部研修を行い、スタッフ全員が身体拘束における弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内部研修を行い、スタッフが学べる機会を作るようにしている。また、日々のケアの中で虐待につながるようなことがないか、スタッフ同士で確認し振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会を作っており、資料等で情報を共有している。また、入居者のご家族より相談があった際にはご案内することができるように資料を準備している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、改定等の際は十分な説明を行い、不安や疑問に関してはその都度お尋ねし、理解・納得していただけるようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置している。ご家族等からは面会時や運営推進会議の際等に気軽に相談していただけるよう関係作りに努めている。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員ミーティングを行い、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は業務を改善する等して運営に反映することができるように努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況を把握し、適切な人員配置にて過度なストレスや疲労が蓄積することのないよう配慮している。向上心がもてる職場環境作りに努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用については性別・年齢不問としており、考え方や人間性を重視するようにしている。また、職員の能力向上のため、研修等に参加できる機会を設けていきいきと働くことができるような環境作りに努めている。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重するため、言葉かけや接し方についてミーティング等で話し合いを行っている。その方らしい生活を継続していきことができるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や能力に合わせ、勤務に支障がない限り外部への研修に参加できるようにしている。また、代表者は職員と面談を行う等して助言・指導を行うようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所と交流する機会を設けている。情報の交換を行うことでサービスの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはリラックスできる環境でご本人と面談を行い、困りごと・不安ごと・要望等をお聞きするようにしている。また必要に応じて体験入居を行い、安心してご入居いただけるよう配慮している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が望むご本人の暮らしや抱える不安・要望等をお聞きし、抱えている不安等を解消していただくことができるよう関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によって選択肢があることをお伝えし、その時必要であると思われるサービスのご提案・ご紹介を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者お一人おひとりにできることを活かし、自信を失わずに生活していただくことができるように支援している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日ごらの様子や心身状態をこまめに報告し、ともにご本人にとってのより良い暮らしについて考えていくようにしている。ご家族からも気軽に相談していただくことができるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族の協力を得ながら、馴染みの方のお見舞いや面会に外出されており、ご家族やご友人との面会も時間の制限なく行っていただいている。また、馴染みの場所を訪れることができるよう外出や外食を企画している。</p>		
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>全員で参加することのできるレクリエーションや行事を企画し、入居者同士が関わりをもつことができるよう努めている。また、コミュニケーションが円滑に図れるよう、スタッフが橋渡し役となっている。</p>		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了時には、その後必要なサービスを受けることができるよう関係機関との連絡調整を行っている。また、関係を継続することができるように相談や支援に努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴や日々の言動等からおひとりおひとりの希望や意向を把握することができるように努めている。また、心情変化や日々の言動等から気づいたことをミーティング等で話しあうようにしている。</p>		
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用開始初期段階において、ご本人・ご家族より聞き取りを行い、必要な情報を収集・把握するようにしている。また、会話から得た情報は記録しておき、職員間で共有できるようにしている。</p>		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>心身状態の変化や日々の行動等を個別に記録し、現状を総合的に把握できるように努めている。</p>		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人やご家族の要望・意向に沿うことができるようミーティング等で話し合い、そこで出た意見やアイデアを取り入れながら介護計画を作成している。また、必要と思われる際にはその都度見直しを行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づき等は個別に記録し、職員間で情報を共有している。また、ケアの実践についてはケアチェック表に記入し介護計画の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おひとりおひとりの状況に応じて柔軟な支援・サービスに取り組むことができるよう心がけている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや学生の実習受け入れを行う等、日々の生活に楽しみを持っていただくことができるように支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れたかかりつけ病院への受診継続を支援している。ホームの協力医療機関の受診を希望される方には付き添いサービスを行っている。できる限りご家族の同行をお願いするようにしている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行い、体調変化の早期発見に努めている。とらえた情報や気づきはかかりつけ病院や近接施設の看護士に相談を行い、適切な受診・アドバイスが受けられるようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際にはご本人とご家族の同意を得て情報提供を行っている。また、こまめに面会に伺い情報交換を行うことで安心して治療・早期に退院することができるように支援している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後はご家族に身体状態の報告を行い、現状態について把握していただくようにしている。病院受診や入院が多くなってきた時点で、ご本人・ご家族、主治医と話し合いを行い、今後の支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や手当、事故発生時の初期対応等のマニュアルがあり、マニュアルに沿って対応できるよう備えている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害を含めた災害時マニュアルがある。また、年に2回、消防署や設備点検会社の協力を得て、避難訓練を実施している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者に対しての言動に注意し、おひとりお一人を個人として尊重するようにしている。また、接遇やプライバシー確保・人格尊重についての勉強会を行い、意識を高めている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定していただくことができるよう、返答しやすい質問にしたり選択肢を2～3つにする等、配慮している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者おひとりおひとりの生活ペースを大切に、その日過ごしたい希望にできる限り添えるようにしている。その方らしく過ごすことができるように支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出の際に衣類を選択していただき、その日の状況に応じた身だしなみができるように支援している。また、2ヶ月に1回訪問美容をお願いし、好みのヘアスタイルにカットしていただいている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会・イベントの際にはご入居者の希望や好みにあわせた食事・おやつ作りを行っている。また、食事前後にテーブルを拭いていただいたりお盆に食器を重ねていただく等、ともに準備や片づけを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おひとりお一人の咀嚼や嚥下状態に合わせた食事・水分形態で提供している。また、摂取した食事や水分量は記録し、支援の目安にしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。おひとりお一人の力に応じて仕上げ磨き等の支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、夜間は義歯をお預かりし、洗浄剤による義歯洗浄を行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、お一人おひとりの排泄パターンを把握している。時間ごと・随時の誘導により、できるだけ失禁なく排泄していただくことができるように支援している。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無について、チェック表にて確認・把握を行っている。こまめな水分補給や適度な運動を心がけ、便秘予防に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯はほぼ決定しているが、個々の希望や予定、その日の体調等を考慮し、ゆっくりと入浴していただくことができるように支援している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や希望にあわせて自由に休息をとっていただいている。夜間、なかなか寝付けない方には付き添いを行って安心していただいたり、日中の活動量を増やす等の支援を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のカルテにて薬の説明書を管理し、いつでも用法・用量、副作用等について確認することができるようにしている。服薬時には誤薬がないよう名前や日付を読み上げる等して安全に服薬できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で掃除や洗濯たみ等、それぞれ力を活かした役割を持っていただいている。また、外出や散歩の機会を持ち外気に触れることができるように支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、外食等の際は希望をお聞きし、希望に沿って外出できるように支援している。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・ご家族同意のもと、お小遣い程度の現金をお預かりしている。買い物の際は職員付き添いにて支払いを行っていただいている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある際はいつでも電話していただくことができるように支援している。また、年賀状や暑中見舞い等、季節の挨拶状をご家族やご友人に出すことができるように支援行っている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の壁面飾りを季節感の感じられるものにした。手作りのカレンダーを作成する等して家庭的な雰囲気作りに努めている。また、こまめに室温調整を行い、快適に過ごしていただけるように支援している。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファや食卓、和室があり、余暇時にはそれぞれお好きな場所で心地よく過ごしていただけるように工夫している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた馴染みのある家具や道具を持ち込んでいただき居心地良く過ごしていただける居室作りに努めている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全フロアバリアフリーとなっており、また壁面には手すりを設置し安全に移動・移乗していただけるようになっている。車椅子でも安全に移動していただけるよう環境を整えている。		